



SSH NEWS

2016年
3月号

発行 埼玉県立川越高等学校
SSH生徒委員
SSH推進委員会

生徒研究発表会開催!

口頭発表14本、ポスター発表30本



2月15日(月)平成27年度川越高校SSH生徒研究発表会が開催された。1・2年生のSSH研究グループ選択者及びハワイ島実習生の研究発表の場であり、1・2年生全生徒・保護者・他校の教員が参加した。発表生徒はこれまでの研究成果を分かりやすく説明できるようにそれぞれに工夫を凝らしていた。

当日は、開会式での梶田隆章先生によるノーベル物理学賞受賞記念講話で始まり、ポスター発表、川越市やまぶき会館での口頭発表が行われた。研究テーマ数は、昨年度より増加し、口頭発表が14テーマ、ポスター発表が30テーマ、計44テーマであり、例年に比べやや多い。また、見学で来場した竜ヶ崎第一高校生徒のポスター発表も行われた。内容は身近な事象を題材にしたものが増え、聴く生徒にとっても、関心が高く熱心に聴く様子が印象に残った。

○生徒の感想

- ・どの班も専門的なことに本格的な方法で取り組んでおり、自分もSSHをやってみたいと思った。
- ・図や写真の使い方がうまく、とても見やすかった。
- ・普段当たり前だと思いうことに疑問を持ち、調べていて面白かった。
- ・自分が研究していた分野以外のことを詳しく知ることができた機会だった。一つに絞らず様々なことに興味を持つことができたと思う。
- ・納得のいく口頭発表はできなかったが、他校の先生等からアドバイスをいただいたり、他校の発表を聞いたりすることができてとても参考になり、有意義な時間だった。
- ・これからの時代、英語での発表は非常に重要になってくる。それを見る事が出来たのはとても良い経験になった。
- ・人にものを伝える事の難しさや大切さがよく分かった。



開会式

梶田隆章先生による講話



生徒研究発表会に先立ち、梶田隆章先生(東京大学宇宙線研究所長、2015年ノーベル物理学賞)による講話が行われた。「ニュートリノの小さい質量の発見」と題して川越高校時代からニュートリノ発見に至るまでの自身の経験を交え、川高生へのメッセージをいただいた。講話の後、本校代表生徒から花束の贈呈、校歌斉唱で梶田先生への敬意を表した。

梶田先生は来年度5月16日(月)SSH全校講演会でもご講演いただく予定となっている。

○生徒の感想

- ・研究という道に興味を持つことができた。
- ・カミオカンデは研究者自身らによって文字通り手作りされた研究装置だと聞き、驚きを感じた。
- ・自分がちよつと気になった所を詳しく調べたことがノーベル賞を受賞する様な大発見につながった。自分もちよつとした疑問を大事にし、詳しく調べてみようと思った。
- ・非常に感動した。これからの進路に、先生の話を役立てていきたい。
- ・「いつ人生を変える重要な出会いがあるかわからないので、今のうちに準備しておく」と先生はおっしゃっていたので、勉強、部活をしっかりと充実させて高校生活を送りたいと思った。

○当日の日程

- 12:40~13:20 (体育館)
 - 開会式
 - 梶田隆章先生ノーベル賞受賞記念講話
- 13:40~14:30 (理科棟)
 - ポスター発表・口頭発表分科会
- 14:50~16:20 (やまぶき会館)
 - 各グループ代表生徒による口頭発表
 - A : かに星雲の偏光観測
 - B1 : シバ-チップテラの開鎖空間における生態系成立のための最低条件の調査探求
 - B2 : 洗剤・洗濯のりと結晶の生成との関係
 - C : BS アンテナで分かる太陽電波と黒点の関係と太陽の表面温度 建造物周辺における風速の変化の研究
 - ハワイ島実習生:
 - オヒレフアの形状変化
 - ハワイ島マウナケア山の標高による重力加速度の変化

